

2025 年度「社会共生実習」

募集要項／プロジェクト紹介冊子

2016 年度以降入学生対象

「社会共生実習」とは、社会学部の全 3 学科が共同で運営する、地域連携型の実習科目です。社会学部の所属教員が毎年多様なプロジェクトを提供しており、社会学部の学生は所属学科を問わず希望するプロジェクトに参加申し込みをすることができます。

履修の可否を判定するため、事前登録を Web 上（ポータルサイトのアンケート）にて行っていただく必要があります。受講が認められると辞退ができないため、十分検討してから事前登録を行ってください。

社会状況や実習先の都合などにより、本冊子に記載しているプロジェクトの内容が変更になることがあります。しかし、その場合でも、同等の到達目標を達成するための取り組みをプロジェクトの担当教員と実習生でつくりあげていきます。

※実習は大学や学部の行動指針にもとづき運営されます。



【2025 年度「社会共生実習」を受講するまでの流れ】※詳細は p3-4 参照

1	本日	2025 年度開講予定の「社会共生実習」プロジェクト内容が記載された紹介冊子（本冊子）をもらう	11/14（木）履修説明会にて配布
2	1/10(金) 11:00-12:30	2024 年度「社会共生実習」の活動報告会に参加する	会場：8-101 講義室 及び 1 階フロア
3	日程は裏面参照	2025 年度「社会共生実習」の個別履修相談会に参加する	
4	1/10(金) ～2/28(金)15:00 迄	事前登録（ポータルサイトのアンケート）をおこなう	
5	3 月上旬	受講可否判定結果発表を確認する	※ポータルサイトのお知らせにて発表

社会共生実習支援室（6 号館 1 階 106 号室） TEL：077-544-7230 Mail：co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

目次

「社会共生実習」について	3
■2025 年度に開講するプロジェクトの紹介	3
■2025 年度「社会共生実習」履修説明会の開催について	3
■2024 年度「社会共生実習」活動報告会の開催について	3
■2025 年度「社会共生実習」個別履修相談会の開催について	3
■事前登録方法.....	3
■受講可否判定結果発表について	4
■その他の留意事項	4
■質問・問い合わせ先.....	4
2025 年度「社会共生実習」プロジェクト紹介	5
地域エンパワねっと・大津中央	6
農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」	10
お寺の可能性を引き出そう！ー社会におけるお寺の役割を考えるー.....	14
障がいがある子どもたちの放課後支援	19
コミュニティの情報発信！レク龍 プロジェクト.....	22
【2025 年度「社会共生実習」個別履修相談会について】	25

「社会共生実習」について

■2025 年度に開講するプロジェクトの紹介

2025 年度「社会共生実習」では、受講したいプロジェクトを以下①～⑤の中から3つまで希望できます。各プロジェクトの概要は 5 ページ以降をご参照ください。

- ① 地域エンパワねっと・大津中央
- ② 農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」
- ③ お寺の可能性を引き出そう！ー社会におけるお寺の役割を考えるー
- ④ 障がいがある子どもたちの放課後支援
- ⑤ コミュニティの情報発信！レク龍 プロジェクト

※2025年度「社会共生実習」プロジェクトは、追加となることがあります!!

追加情報は、12 月 10 日ごろ HP の TOPIX やポータル等でお知らせさせていただきます。

■2025 年度「社会共生実習」履修説明会の開催について

来年度開講されるプロジェクトや事前登録方法についての履修説明会が、2024 年 11 月 14 日（木）13:30～15:00（3 限）「現場主義入門」の授業内にて対面で開催されます。会場は 3 号館 202 講義室です。来年度、「社会共生実習」の受講を検討している方は事前登録方法をよく確認しておいてください。なお、他の授業と重複している場合は、後日ポータルサイトにてお知らせされるオンデマンド配信をご覧ください。

■2024 年度「社会共生実習」活動報告会の開催について

今年度開講されたプロジェクトの活動報告が、2025 年 1 月 10 日（金）11:00～12:30に開催されます。参加は任意ですが、どのような活動を行うのかがよくわかりますので是非ご参加ください。会場は 8 号館 103 講義室及び 1 階フロアです。

■2025 年度「社会共生実習」個別履修相談会の開催について

来年度開講されるプロジェクト別の履修相談会が、2025 年 1 月 10 日（金）から随時開催されます。担当教員等に直接相談できる機会なので、ぜひご参加ください。各開催日時と会場は本冊子裏面をご覧ください。

■事前登録方法

通年の履修を求めているプロジェクトについては、2024 年度入学生（現 1 年生）は「IA・IB」、2023 年度入学生（現 2 年生）は「IIA・IIB」、2022 年度入学生（現 3 年生）は「IIIA・IIIB」というように、前後期を一括して登録します。半期開講プロジェクト・通年開講プロジェクトともに年度途中での辞退や追加は出来ません。いずれもポータルサイトのアンケート項目にある、『【重要】2025 年度「社会共生実習 IA～IIIB」事前登録について』にて、登録してください。アンケートは 2025 年 1 月 10 日（金）～2 月 28 日（金）15:00 までポータルサイトにアップされます。入力に時間がかかる可能性があるため、はやめの登録を心がけてください。

■受講可否判定結果発表について

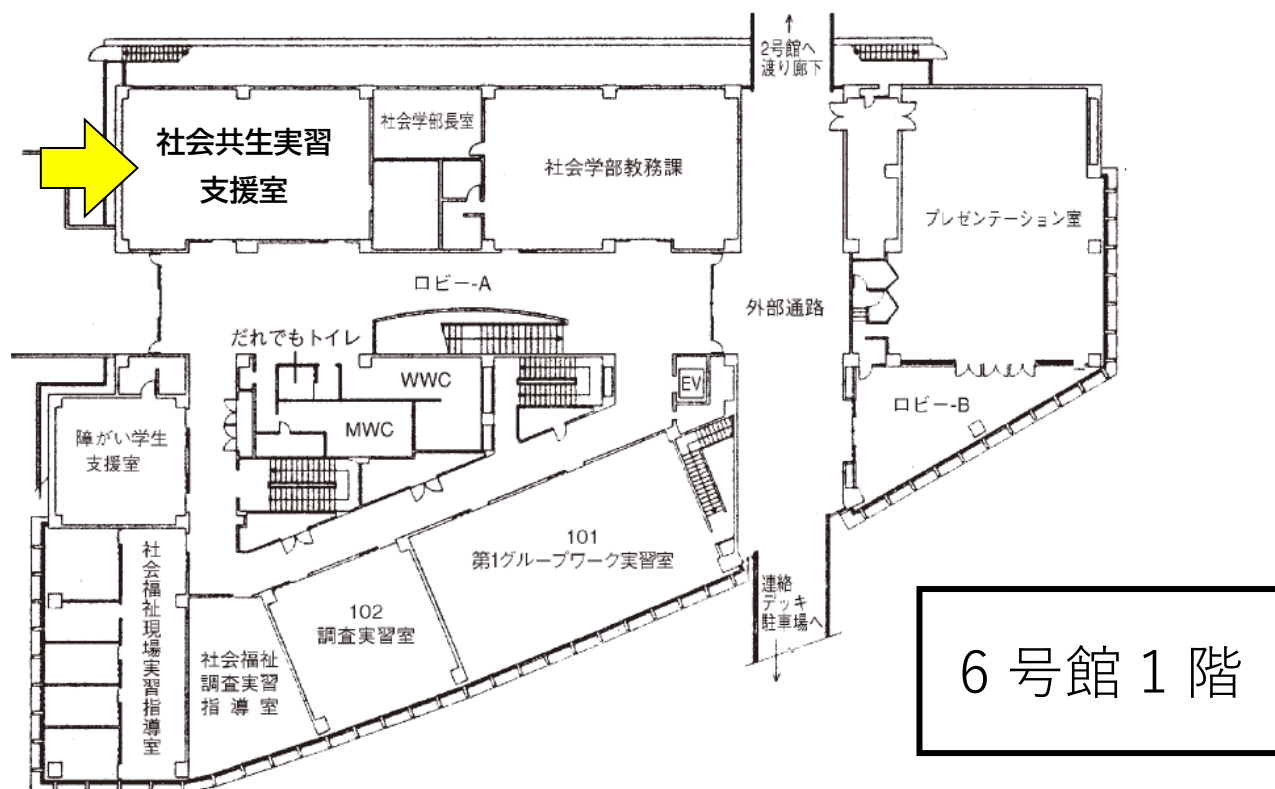
希望するいずれかのプロジェクトの受講を認められた学生に対しては、2025 年 3 月上旬に、受講許可された旨と履修する上で重要な連絡がポータルサイトのお知らせにて発表されます。注意して確認してください。

■その他の留意事項

- * 本実習は、土・日・祝日及び休業期間の実習を伴うことがあります。5 ページ以降の各プロジェクトの概要をよく読み、課外活動等を考慮の上、事前登録してください。
- * プロジェクトには、募集学生数の上限、下限が設定されています。受講希望者が下限を下回った場合は不開講となることもあります。あらかじめご了承ください。
- * 受講決定後は取り消しができないので、事前登録する前によく確認してください。

■質問・問い合わせ先

社会共生実習支援室 6号館1階106号室



【連絡先】

TEL : 077-544-7230

Mail : co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

開室時間 : 月、水～金 9:00～17:00、火 10:45～17:00

※ただし、会議や休業日で閉室している場合もあります。

開室時間を確認したい場合は事前にお問い合わせください。



2025 年度「社会共生実習」プロジェクト紹介



プロジェクト名	地域エンパワねっと・大津中央
担当者名	脇田健一 ★連絡先／ wakkyken@gmail.com
プロジェクトの概要	2007 年に文部科学省の「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」(現代 GP)に採択され、その後も、龍谷大学社会学部が独自に取り組んできた地域連携型教育プログラムです。 地域の方々と連携しながら、流動的な地域社会の中で地域課題を「発見」し、地域課題の「解決」に取り組み、そこから生まれた成果の地域の方々との「共有」を目指します。そのような「発見」「解決」「共有」のプロセスを経験することで、状況を的確に把握し、多様な人びととの協働なかで、まちづくりに関わるさまざまな事業を企画、実践していける力を身につけます。 活動場所は、大津市の中央小学校区を中心とした地域。江戸時代の宿場町の風情を残す伝統的な町家とマンションとが混在しています。歴史や伝統を持続させつつも、地域が少しずつ変化している様子が街の景観からも浮かび上がってきます。 ・ 1 年目前期の活動 大学の地元である大津市で活動している方々（自治会、地域づくり団体、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、子ども会、老人倶楽部、NPO、ボランティア、企業、行政など）からお話をうかがい、活動に参加させていただきながら、地域住民の皆さんと一緒に地域の「課題を発見」します。 ・ 1 年目後期の活動 発見した「課題の解決」に向けて、チームで事業を企画し、地域の皆さんと協働しながら取り組みます。そして、その結果や成果を地域の皆さんと「共有」します。 ・ 2 年目の活動 1 年目に築いた地域の皆さんとの信頼関係を基盤に、地域団体などの活動にメンバーとして参画し、地域課題の解決にさらに深く関わります。後輩への指導を通じて、学びのさらなる定着を目指します。 ・ 身につく力 丁寧に実習に取り組むことで、コーディネート力、インタビ

	ユーススキル、調査スキル、企画力、企画書作成力、広報力、プレゼンテーション力等が身につきます。	
募集学生数	上限 10 名、下限 2 名	
活動場所	「大津市中央学区」を中心とした大津市の中心市街地。学区の自治連合会、各種団体と連携して活動します。	
到達目標と 成績評価方法 ※実習科目ですので、1 セメ スターにつき 60 時間以上 の実習（うち 40 時間は原 則として学外）を要しま す。	1 年目前期	1 年目後期
	第 3・5・7 セメスター	第 4・6・8 セメスター
	〔到達目標〕 地域課題を発見する。 〔成績評価方法〕 ①平常点（60%） 全体授業や地域活動、チーム活動への主体的参加度や学びの深まりについて、各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 ②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。	〔到達目標〕 地域住民と協力して地域課題の解決方策を立案し、それを実践する。 〔成績評価方法〕 ①平常点（60%） 全体授業や地域活動、チーム活動への主体的参加度や学びの深まりについて、各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 ②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。 ※第 6 セメスター生であっても、エンパワねっと受講が初めての学生は 1 年目とする。
	2 年目前期	2 年目後期
	第 5・7 セメスター	第 6・8 セメスター
	〔到達目標〕 地域団体などの活動にメンバーとして参画し、協働できるようになる。 〔成績評価方法〕 ①平常点（60%） 各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 ②レポート（40%） 本実習を通しての学びについて	〔到達目標〕 地域団体などの活動にメンバーとして参画し、その活動成果を地域にフィードバックできるようになる。 〔成績評価方法〕 ①平常点（60%） 各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 「ボランティアコーディネーシ

	まとめたレポートで評価する。	「ヨン力検定」3級などの関連する外部資格を取得した場合、プラスに評価する。 ②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。
	3年目前期	3年目後期
	第7セメスター	第8セメスター
	2027年度は不開講予定です。	2027年度は不開講予定です。
2025年度の 活動スケジュール 概要	<u>1年目の学生</u> 4月：オリエンテーション、まちあるき、地域デビュー 5～7月：チームに分かれて地域活動に参加し、情報収集や関係者へのインタビュー（⇒課題の発見へ） 9月～1月：チームごとに課題の解決に向けた企画の立案、準備、実施を行う（⇒課題の解決へ） 1月中旬：社会共生実習活動報告会（⇒地域との共有） <u>2年目の学生</u> 1年目修了後（1～3月）：地域参画の交渉、準備 4月～7月：前期の地域参画活動 8月～1月：後期の地域参画活動 1月中旬：社会共生実習活動報告会	
系統履修すべき 科目の紹介	次頁参照	
主な活動曜講時 （時間割を組む際に 参考にしてください）	毎週ではなくても、金曜日3限の授業のあとの4・5限の時間帯、プロジェクトのチームでミーティングや作業を行えることが望ましい。また、地域の皆さんとの活動は、土日に行うことになる。	
担当者からの メッセージ	プロジェクトの仲間や、地域の皆さんと積極的に交流し、知恵を出し合い、汗を一緒に流すことで、自分自身の内に隠れた力を伸ばしていってください。	

「地域エンパワねっと・大津中央」の受講に伴う系統履修すべき科目の紹介

※「系統履修すべき科目」とは、必修ではなく、履修することでより理解が深まる科目を指します。

※「社会共生実践プログラム認定証」の取得を目指す者は、卒業時まで下表右に明記された指定単位数の修得が必要となります。

【注意】他学科が提供する学部共通講義については、上限16単位までを卒業要件単位として認定します（16単位を超えて履修することは可能ですが、その単位は卒業要件単位に認定されません）。

区分		社会	CM	現福	科目名	セメスター	単位数	提供学科	「社会共生実践プログラム」指定単位数 ※詳しくは履修要項をご参考ください
基礎科目		☒	☒	☒	現場主義入門	2	2	共通	2
		☒	☒	☒	差別論	3	2	社会	6
		☒	☒	☒	地域社会論	4	2	社会	
		☒	☒	☒	コミュニティ論	2	2	CM	
		☒	☒	☒	多文化共生論	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	コミュニティデザイン	4	2	福祉	
発展科目	地域社会の理解	☒	☒	☒	びわ湖・滋賀学	4	2	社会	4
		☒	☒	☒	都市社会学	4	2	社会	
		☒	☒	☒	環境社会学	4	2	社会	
		☒	☒	☒	地域と語り	1	2	CM	
		☒	☒	☒	地方自治論	4	2	福祉	
	課題解決の原理と方法	☐	☐	☐	社会問題の社会学	3	2	社会	6
		☐	☐	☐	集団と組織の社会学	3	2	社会	
		☒	☒	☒	NPO・NGO論	3	2	社会	
		☒	☒	☒	地域再生の社会学	5	2	社会	
		☐	☐	☐	社会運動論	6	2	社会	
		☒	☒	☒	コモンセンス論	2	2	CM	
		☒	☒	☒	ファシリテーション技法	3	2	CM	
		☒	☒	☒	まちづくり論	4	2	CM	
		☒	☒	☒	生活問題論	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	社会貢献論	3	2	福祉	
		☒	☒	☒	ボランティア論	3	2	福祉	
		☒	☒	☒	社会企業論	4	2	福祉	
	分野別課題の理解と活動	☒	☒	☒	エスニシティ論	4	2	社会	4
		☒	☒	☒	家族社会学	4	2	社会	
		☒	☒	☒	現代宗教論	5	2	社会	
		☒	☒	☒	子ども社会学	5	2	社会	
		☒	☒	☒	寺院活動論	4	2	CM	
		☒	☒	☒	仏教福祉活動論	5	2	CM	
		☒	☒	☒	高齢者福祉論Ⅰ	1	2	福祉	
		☒	☒	☒	児童福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	障害者福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	家族福祉論	3	2	福祉	
	☐	☐	☐	国際福祉論	4	2	福祉		
学科指定科目	☒	☐	☐	社会統計学Ⅰ	2	2	社会	2	
	☒	☐	☐	社会統計学Ⅱ	3	2	社会		
	☒	☐	☐	質的調査法	3	2	社会		
	☒	☐	☐	量的調査法	4	2	社会		
	☒	☐	☐	民俗学	5	2	社会		
	☒	☐	☐	市民社会論	5	2	社会		
	☒	☐	☐	観光社会学	6	2	社会		
学科指定科目	☐	☒	☐	シティズンシップ論	1	2	CM	2	
	☐	☒	☐	地域スポーツ論	2	2	CM		
	☐	☐	☐	地域と経済	3	2	CM		
	☐	☐	☐	地域と社会動態	3	2	CM		
	☐	☒	☐	地域社会とメディア	3	2	CM		
	☐	☒	☐	質的調査法	3	2	CM		
	☐	☒	☐	量的調査法	4	2	CM		
学科指定科目	☐	☐	☒	地域福祉論	4	4	福祉	6	
	☐	☐	☒	社会福祉調査論	4	2	福祉		
実習科目					社会共生実習ⅠA	3	2		共通
					社会共生実習ⅠB	4	2		共通
					社会共生実習ⅡA	5	2		共通
					社会共生実習ⅡB	6	2		共通
					社会共生実習ⅢA	7	2	共通	
					社会共生実習ⅢB	8	2	共通	
合計									30

龍谷大学社会学部
2025 年度「社会共生実習」概要／募集要項

②

プロジェクト名	農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」	
担当者名	坂本清彦 ★連絡先／ a17248@mail.ryukoku.ac.jp	
プロジェクトの概要	滋賀県栗東市で、農業を通じた障がい者が働き生きる場づくりなど「農福連携」事業を進める NPO 縁活・おもやを拠点に、学生が農業生産・加工・販売、マルシェなど地域イベント、調査活動に参画します。2025 年度も障がい者も含めて多様な人々がつながり生き生きと暮らせる共生社会の実現に向けて、農福連携の取り組みとその意義を地域社会や大学関係者に知ってもらうためのさまざまな PR 方策を検討し実践します。	
募集学生数	上限 8 名、下限 1 名	
活動場所	滋賀県栗東市・湖南市のおもや農園、農産物加工作業所、カフェ「オモヤキッチン」、おもやの農産物出荷先や農福連携事業先など	
到達目標と 成績評価方法	1 年目前期	1 年目後期
	第 3・5・7 セメスター	第 4・6・8 セメスター
	縁活おもやの農業関連活動や地域イベントへの参画を通じ、現場状況を把握し、関係者から話を聞ける関係を築きます。毎回の実習活動ログに記録した学びや取り組み姿勢を評価します。	事業参画に加えて関係者への聞き取り等も交え、農福・地域連携上の課題を抽出し、解決方針案を策定、報告してください。活動ログと報告書から実習からの学びと取り組み姿勢を評価します。
	2 年目前期	2 年目後期
	第 5・7 セメスター	第 6・8 セメスター
	事業に参画しつつ農福連携の認知度向上のための取り組み企画において主体的な役割を果たしてください。1 年目の受講生への支援や受講生の中でリーダーシップを発揮してください。実施計画と活動ログに記録した学びや取り組み姿勢を評価します。	事業に参画しつつ前期に策定した農福連携の認知度向上の取り組みの実施及び関係者への聞き取り等による効果検証・報告において主体的な役割を果たしてください。1 年目の受講生への支援や受講生の中でリーダーシップを発揮してください。活動ログと報告書から実習での学びと取り組み姿勢を評価します。

※実習科目ですので、1 セメスターにつき 60 時間以上の実習（うち 40 時間は原則として学外）を要します。

	3年目前期	3年目後期
	第7セメスター	第8セメスター
	事業に参画しつつ農福連携の認知度向上のための取り組み企画において主体的・指導的な役割を果たせる。1・2年目の受講生への支援や受講生全体でのリーダーシップを発揮できる。実施計画と活動ログに記録した学びや取り組み姿勢を評価します。	事業に参画しつつ前期に策定した農福連携の認知度向上の取り組みの実施及び関係者への聞き取り等による効果検証・報告において主体的・指導的な役割を果たせる。1・2年目の受講生への支援や受講生全体でのリーダーシップを発揮できる。活動ログと報告書から実習での学びと取り組み姿勢を評価します。
2025年度の 活動スケジュール 概要	1年目の学生 前期は縁活おもやの農作業は地域イベントに参画し、担当教員ともに受入れ先の状況把握や関係者との信頼構築を図ります。実習生の顔を覚えてもらう、話を聞ける関係を築くことをめざします。後期は、おもや及び滋賀県・京都府内の関係者の調査、農福連携事業への参画を通じ、農福連携事業の概要、課題把握と解決に向けた提言策定を図ります。前期後期を通じて、おもやや関連組織の方々への聞き取りや農作業時の参与観察を行い、社会調査のスキルアップを目指します。 2年目の学生 1年目の受講生と共に引き続おもやにおける活動に参画し、後輩受講生の学修支援をしつつ、前年度までの経験をふまえて農福連携事業における課題解決に向けた活動の提案、実践を行います。 3年目の学生 1、2年目の受講生と共に引き続おもやにおける活動に参画し、後輩受講生の学修支援をしつつ、前年度までの経験をふまえて農福連携事業における課題解決に向けた活動の提案、実践を行います。あわせて卒業後の進路において本実習で学んだことを活用することを念頭に、調査・企画・プレゼンテーションなどの内容を担当教員と検討し実施します。	
系統履修すべき 科目の紹介	次々頁参照	

主な活動曜講時 (時間割を組む際に 参考にしてください)	<u>注意！</u> 農福連携プロジェクトでは、通常時は各自の希望にあわせて毎週水曜日午前または金曜日午前に活動します。自分が活動したい曜日の1・2限には他の授業を登録しないでください！！ 通常時は、水曜日または金曜日 9 時 30 分から「おもやキッチン」(栗東市霊仙寺、JR 栗東駅から徒歩 12～3 分)で朝礼、農作業に参加して、11 時半に解散(栗東駅 11 時 55 分発の電車で深草学舎に 13 時頃に到着し 3 限の授業に間に合います)。 また社会共生実習の履修登録は金曜日 3 限になります。金曜日 3 限に他のプロジェクトと合同で活動(実習報告会など学期に 1～2 回程度)が組まれることがあるので注意してください。 その他、週末にも活動することがあります(学期に 1～2 回程度)。金曜日 3 限や週末に活動する場合は早めに予定を知らせます。
担当者からの メッセージ	農福連携の取り組みはここ 10 年の間に国内で急速に広まりましたが、その潜在的なチカラや価値が十分に発揮されているとは言えません。就労機会の少ない障がい者を人手不足の農業労働力にするとする農福連携のこれまでのあり方を超えて、多様な人々が「生きる営み」である農業を介して地域社会つなり、SDGs(持続可能な開発目標)にも沿った誰が生きと暮らせる共生社会につながる農福連携のあり方が求められています。そうした地域社会の実現に向けた課題把握と解決方策提言を、生々しい現場経験、堅固な調査・分析、ファシリテーション的手法を生かしながら進めていきます。 実習では「おもや」の利用者(障がい者)さんやスタッフさんとともに農作業や農産物の出荷調整作業に携わります。農作業のできる服装・身支度をお願いします。

「農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」」の受講に伴う系統履修すべき科目の紹介

※「系統履修すべき科目」とは、必修ではなく、履修することでより理解が深まる科目を指します。

※「社会共生実践プログラム認定証」の取得を目指す者は、卒業時までには下表右に明記された指定単位数の修得が必要となります。

【注意】他学科が提供する学部共通講義については、上限16単位までを卒業要件単位として認定します（16単位を超えて履修することは可能ですが、その単位は卒業要件単位に認定されません）。

区分		社会	CM	現福	科目名	セメスター	単位数	提供学科	「社会共生実践プログラム」指定単位数 ※詳しくは履修要項をご参考ください
基礎科目		☒	☒	☒	現場主義入門	2	2	共通	2
		☒	☒	☒	差別論	3	2	社会	6
		☒	☒	☒	地域社会論	4	2	社会	
		☒	☒	☒	コミュニティ論	2	2	CM	
		☒	☒	☒	多文化共生論	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	コミュニティデザイン	4	2	福祉	
発展科目	地域社会の理解	☒	☒	☒	びわ湖・滋賀学	4	2	社会	4
		☐	☐	☐	都市社会学	4	2	社会	
		☒	☒	☒	環境社会学	4	2	社会	
		☒	☒	☒	地域と語り	1	2	CM	
		☒	☒	☒	地方自治論	4	2	福祉	
	課題解決の原理と方法	☒	☒	☒	社会問題の社会学	3	2	社会	6
		☒	☒	☒	集団と組織の社会学	3	2	社会	
		☒	☒	☒	NPO・NGO論	3	2	社会	
		☒	☒	☒	地域再生の社会学	5	2	社会	
		☒	☒	☒	社会運動論	6	2	社会	
		☒	☒	☒	コモンセンス論	2	2	CM	
		☒	☒	☒	ファシリテーション技法	3	2	CM	
		☒	☒	☒	まちづくり論	4	2	CM	
		☒	☒	☒	生活問題論	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	社会貢献論	3	2	福祉	
		☒	☒	☒	ボランティア論	3	2	福祉	
		☒	☒	☒	社会企業論	4	2	福祉	
	分野別課題の理解と活動	☒	☒	☒	エスニシティ論	4	2	社会	4
		☒	☒	☒	家族社会学	4	2	社会	
		☐	☐	☐	現代宗教論	5	2	社会	
		☒	☒	☒	子ども社会学	5	2	社会	
		☐	☐	☐	寺院活動論	4	2	CM	
		☐	☐	☐	仏教福祉活動論	5	2	CM	
		☒	☒	☒	高齢者福祉論Ⅰ	1	2	福祉	
		☒	☒	☒	児童福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	障害者福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	家族福祉論	3	2	福祉	
		☒	☒	☒	国際福祉論	4	2	福祉	
学科指定科目	☐			社会統計学Ⅰ	2	2	社会	2	
	☐			社会統計学Ⅱ	3	2	社会		
	☒			質的調査法	3	2	社会		
	☒			量的調査法	4	2	社会		
	☐			民俗学	5	2	社会		
	☒			市民社会論	5	2	社会		
	☐			観光社会学	6	2	社会		
学科指定科目		☒		シティズンシップ論	1	2	CM		
		☐		地域スポーツ論	2	2	CM		
		☒		地域と経済	3	2	CM		
		☒		地域と社会動態	3	2	CM		
		☐		地域社会とメディア	3	2	CM		
		☒		質的調査法	3	2	CM		
		☒		量的調査法	4	2	CM		
学科指定科目			☒	地域福祉論	4	4	福祉		
			☒	社会福祉調査論	4	2	福祉		
実習科目					社会共生実習ⅠA	3	2	共通	6
					社会共生実習ⅠB	4	2	共通	
					社会共生実習ⅡA	5	2	共通	
					社会共生実習ⅡB	6	2	共通	
					社会共生実習ⅢA	7	2	共通	
					社会共生実習ⅢB	8	2	共通	
その他の科目	☒	☒	☒	農業入門－食と農の理解－	1	2	共通		
合計									30

龍谷大学社会学部
2025 年度「社会共生実習」概要／募集要項

③

プロジェクト名	お寺の可能性を引き出そう！ —社会におけるお寺の役割を考える—
担当者名	猪瀬優理 ★連絡先／ inose-y@soc.ryukoku.ac.jp 古莊匡義 ★連絡先／ tfuruso@gmail.com
プロジェクトの概要	本実習は、寺院を中心にした地域でのさまざまな社会活動をテーマとする、課題発見・課題探求型の実習です。 近年、こども食堂や高齢者向けのサロンなど、地域のつながりや居場所を作るためのさまざまな社会活動がお寺を拠点に行われています。その中には、お寺や仏教と深いつながりをもたない人が、お寺という場所を使って行う活動もあります。日本のなかにコンビニよりもたくさんあるお寺は、仏教の信仰をもたない人にとっても社会活動の拠点となる可能性を秘めています。 そこで、前期の実習では実習生にお寺の可能性を体験的、主体的に知ってもらうことを目指します。現場実習では、寺院における実際の社会活動に参加します。授業では、教員と共同で寺院を中心とする社会活動について調べます。そして、実習生の関心に合う活動を発見して、その活動に実際に参加しながら体験的に学べる企画を立ててもらいます。 後期の実習では、前期の学びを生かして、現代社会のなかでお寺の可能性をさらに引き出せる活動を企画して、実施してもらいます。内容は受講生の関心によりますが、実習先でのイベント企画や、詳細な社会調査、あるいは探究した内容を共有するワークショップの実施などが活動の一例となります。
募集学生数	上限 20 名、下限 2 名
活動場所	浄土真宗本願寺派 子ども・若者ご縁づくり推進室 京都・滋賀の寺院等（実習を進めるなかで実習生と具体的に連携先を決めていく）

到達目標と 成績評価方法 ※実習科目ですので、1 セメ スターにつき 60 時間以上 の実習（うち 40 時間は原 則として学外）を要しま す。	1 年目前期	1 年目後期
	第 3・5・7 セメスター	第 4・6・8 セメスター
	各実習先の活動に主体的に参画し、社会の中でのお寺の可能性を知るための企画の立案に積極的に参加できる。成績は、実習参加への積極性と、実習の事前事後学習における課題への回答や議論への貢献、実習内容を振り返るために書く実習日誌、期末レポートによって評価する。	他の実習生と協働しながら、実習生が行う活動の立案と実施に貢献できる。成績は、活動やその準備への貢献と、企画の立案・実施の過程で自らの学びを振り返るために書く実習日誌、期末レポートによって評価する。
	2 年目前期	2 年目後期
	第 5・7 セメスター	第 6・8 セメスター
	各実習先の活動に主体的に参画し、実習先とコミュニケーションを取りながら、社会の中でのお寺の可能性を知るための企画の立案を主導できる。成績は、実習参加への積極性と、実習の事前事後学習における課題への回答や議論への貢献、実習内容を振り返るために書く実習日誌、期末レポートによって評価する。	他の実習生や実習先の方々と協働しながら、実習生が行う活動の立案と実施を主導できる。成績は、活動やその準備への貢献と、企画の立案・実施の過程で自らの学びを振り返るために書く実習日誌、期末レポートによって評価する。
	3 年目前期	3 年目後期
	第 7 セメスター	第 8 セメスター
	日本社会の諸問題を念頭に置きつつ、各実習先での活動も踏まえながら、社会の中でのお寺の可能性を知るための企画を立案できる。成績は、実習参加への積極性と、実習の事前事後学習における課題への回答や議論への貢献、実習内容を振り返るために書く実習日誌、期末レポートによって評価する。	実習先と連携を取って、企画を立案し実施することによって、お寺の新たな可能性について提案し、お寺や仏教と深いつながりをもたない人にも伝えることができる。成績は、活動やその準備への貢献と、企画の立案・実施の過程で自らの学びを振り返るために書く実習日誌、期末レポートによって評価する。

2025 年度の
活動スケジュール
概要

1 年目の学生

【前期】

お寺での実際の社会活動に参加する学外実習を 3～4 回、外部講師による特別講義 1～2 回を実施します。実習とその事前・事後学習を通して、社会の中でお寺が果たせる役割や可能性について知ることを目指します。お寺での学外実習あるいは外部講師の特別講義、いずれか 1 回分は学生が主体となり実習先または講師を探して企画します（クラス全体企画）。

さらに、各自の関心にしがたってグループに分かれ、お寺の地域での取り組みについてさらに知りたいお寺を探し、お寺の取り組みやその背景にある考え方を深く知るためのフィールドワークをグループごとに企画し、実施します。

【夏休み】

前期に実習で訪問したお寺の活動や、講義を聴いた方の活動にさらに参加するなどしながら、後期に実習生で行う活動の企画を考えます。

【後期の前半】

前期・夏休みの活動を踏まえて、10 月までに実習生で実施する活動を計画します。必要であれば、実習生に探してもらった外部講師と議論をしながら、計画を固めることができます。

【後期の後半】

活動を実施する準備を行い、何らかの企画や、調査に基づく提案を行います（外部から講師を呼ぶこともできます）。企画や調査・提案の内容は、受講生の関心に沿って決定し、教員は企画内容に合わせて調査方法やイベント開催のノウハウなどを随時助言します。

企画や提案が完了した後に、実習での学びをまとめるために実習報告会で発表を行い、実習報告書を作成します。

2 年目、3 年目の学生

2 年目、3 年目の学生は、1 年目の学生の学修をサポートしながら学びを深めるとともに、自身の 1 年目の学修で取り組んだ企画やその発想をより幅広いところから捉えなおし、深めていき、その成果を広く伝える活動を継続していきます。

系統履修すべき 科目の紹介	次頁参照
主な活動曜講時 (時間割を組む際に 参考にしてください)	毎週金曜 3 講時に活動を行う。 フィールドワークは土曜日、日曜日になる場合が多い。
担当者からの メッセージ	仏教を信じている人でなくても、お寺でさまざまな活動をしている方がたくさんいます。フランクでオープンなお寺も増えています。お寺や仏教に関心のない方でも、たとえば地域活性化やこども食堂など、いろいろなことをやってみたい、そのときお寺が使えるかなと思ったら、ぜひこの実習に参加してみてください。

「お寺の可能性を引き出そう！—社会におけるお寺の役割を考える—」の受講に伴う系統履修すべき科目の紹介

※「系統履修すべき科目」とは、必修ではなく、履修することでより理解が深まる科目を指します。

※「社会共生実践プログラム認定証」の取得を目指す者は、卒業時までには下表右に明記された指定単位数の修得が必要となります。

【注意】他学科が提供する学部共通講義については、上限16単位までを卒業要件単位として認定します（16単位を超えて履修することは可能ですが、その単位は卒業要件単位に認定されません）。

区分		社会	CM	現福	科目名	セメスター	単位数	提供学科	「社会共生実践プログラム」指定単位数 ※詳しくは履修要項をご参考ください
基礎科目		☒	☒	☒	現場主義入門	2	2	共通	2
		☐	☐	☐	差別論	3	2	社会	6
		☒	☒	☒	地域社会論	4	2	社会	
		☒	☒	☒	コミュニティ論	2	2	CM	
		☒	☒	☒	多文化共生論	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	コミュニティデザイン	4	2	福祉	
発展科目	地域社会の理解	☒	☒	☒	びわ湖・滋賀学	4	2	社会	4
		☒	☒	☒	都市社会学	4	2	社会	
		☐	☐	☐	環境社会学	4	2	社会	
		☒	☒	☒	地域と語り	1	2	CM	
		☐	☐	☐	地方自治論	4	2	福祉	
	課題解決の原理と方法	☐	☐	☐	社会問題の社会学	3	2	社会	6
		☐	☐	☐	集団と組織の社会学	3	2	社会	
		☒	☒	☒	NPO・NGO論	3	2	社会	
		☒	☒	☒	地域再生の社会学	5	2	社会	
		☐	☐	☐	社会運動論	6	2	社会	
		☐	☐	☐	コモンセンス論	2	2	CM	
		☐	☐	☐	ファシリテーション技法	3	2	CM	
		☒	☒	☒	まちづくり論	4	2	CM	
		☒	☒	☒	生活問題論	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	社会貢献論	3	2	福祉	
		☐	☐	☐	ボランティア論	3	2	福祉	
		☐	☐	☐	社会企業論	4	2	福祉	
	分野別課題の理解と活動	☐	☐	☐	エスニシティ論	4	2	社会	4
		☒	☒	☒	家族社会学	4	2	社会	
		☒	☒	☒	現代宗教論	5	2	社会	
		☒	☒	☒	子ども社会学	5	2	社会	
		☒	☒	☒	寺院活動論	4	2	CM	
		☒	☒	☒	仏教福祉活動論	5	2	CM	
		☐	☐	☐	高齢者福祉論Ⅰ	1	2	福祉	
		☐	☐	☐	児童福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
		☐	☐	☐	障害者福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
		☐	☐	☐	家族福祉論	3	2	福祉	
		☐	☐	☐	国際福祉論	4	2	福祉	
学科指定科目	☐			社会統計学Ⅰ	2	2	社会		
	☐			社会統計学Ⅱ	3	2	社会		
	☒			質的調査法	3	2	社会		
	☒			量的調査法	4	2	社会		
	☐			民俗学	5	2	社会		
	☐			市民社会論	5	2	社会		
	☐			観光社会学	6	2	社会		
学科指定科目				シティズンシップ論	1	2	CM	2	
				地域スポーツ論	2	2	CM		
				地域と経済	3	2	CM		
				地域と社会動態	3	2	CM		
				地域社会とメディア	3	2	CM		
				質的調査法	3	2	CM		
				量的調査法	4	2	CM		
学科指定科目				地域福祉論	4	4	福祉		
				社会福祉調査論	4	2	福祉		
実習科目					社会共生実習ⅠA	3	2	共通	6
					社会共生実習ⅠB	4	2	共通	
					社会共生実習ⅡA	5	2	共通	
					社会共生実習ⅡB	6	2	共通	
					社会共生実習ⅢA	7	2	共通	
					社会共生実習ⅢB	8	2	共通	
合計									30

龍谷大学社会学部
2025 年度「社会共生実習」概要／募集要項

4

プロジェクト名	障がいがある子どもたちの放課後支援	
担当者名	土田美世子 ★連絡先／mtsuchi@soc.ryukoku.ac.jp	
プロジェクトの概要	基本的に、週1回、または夏期休暇中に、放課後等デイサービスの活動に参加することを通じて、放課後支援の意義と役割を体験的に理解し、ユニバーサルデザインについて学ぶ。 プログラムの後半では、障がいのある子どもとの関わり方について、具体的に指導する。ひとりの子どもへの支援を通じて、地域共生社会の実現のために何が必要かについて、考察を深める。	
募集学生数	上限 10 名、下限 1 名	
活動場所	放課後等デイサービス「ゆにこ」(大津市神領(2 か所)、瀬田、草津市青池)4 事業所。	
到達目標と 成績評価方法 ※実習科目ですので、1 セメスターにつき 60 時間以上の実習（うち 40 時間は原則として学外）を要します。	1 年目前期	1 年目後期
	第 3・5・7 セメスター	第 4・6・8 セメスター
	プログラムの参加と実習に関わる記録等の提出、まとめとして課す「実習でのかかわりのまとめ」の提出	
	2 年目前期	2 年目後期
	第 5・7 セメスター	第 6・8 セメスター
	プログラムの参加と実習に関わる記録等の提出、一人の子どもへの支援に焦点を絞った「自立支援計画」の作成	

	3年目前期	3年目後期
	第7セメスター	第8セメスター
	プログラムの参加と実習に関わる記録等の提出、「共生社会に向けての行動計画」の作成	
2025年度の活動スケジュール概要	1年目の学生 5月初旬まで、実習参加に向けての準備を施する。週1回の実習参加後は、実での学び感じた疑問や課題を内整理し、考察を深める。 2年目の学生 2週目から実習に入り、先及び担当スーパーバイズを受け、それぞれの実習課題について計画を立て、実践する。 3年目の学生 2週目から実習に入り、先及び担当スーパーバイズを受け、それぞれの実習課題について計画を立て、実践する。	
系統履修すべき科目の紹介	次頁参照	
主な活動曜講時 (時間割を組む際に参考にしてください)	受講希望者は、2025年度の時間割を組む際にできるだけ、月・火・水・木のいずれか1日、3・4・5講時に授業を入れたい曜日(実習に行ける日)を作してほしい。但し、平日の午後に実習に行くことが困難な場合は、土曜日・夏休みに実習を実施する。 金曜日3講時は、実習のオリエンテーション、「ゆにこ」関係者からの講話、実習振り返等受者全員で授業を行う。	
担当者からのメッセージ	半期の短い間になりますが、子どもたちと交流は心から楽しめると思います。その楽しさの先で、様々な学びを得てください。 実習は、1か所につき、1日当たり1名～3名で行います。 大学では、実習経験をもとに、行動分析を基本として子どもの関わり方を考察し、必要に応じて関わり方の指導もします。 障がいがある子どもとの関わりに関心がある方なら、経験者も初めての方も、歓迎します。特に、教職課程をめざす人にはよい学びになると思います。	

「障がいがある子どもたちの放課後支援」の受講に伴う系統履修すべき科目の紹介

※「系統履修すべき科目」とは、必修ではなく、履修することでより理解が深まる科目を指します。

※「社会共生実践プログラム認定証」の取得を目指す者は、卒業時まで下表右に明記された指定単位数の修得が必要となります。

【注意】他学科が提供する学部共通講義については、上限16単位までを卒業要件単位として認定します（16単位を超えて履修することは可能ですが、その単位は卒業要件単位に認定されません）。

区分		社会	CM	現福	科目名	セメスター	単位数	提供学科	「社会共生実践プログラム」指定単位数 ※詳しくは履修要項をご参考ください
基礎科目		☒	☒	☒	現場主義入門	2	2	共通	2
		☒	☒	☒	差別論	3	2	社会	6
		☐	☐	☐	地域社会論	4	2	社会	
		☐	☐	☐	コミュニティ論	2	2	CM	
		☐	☐	☐	多文化共生論	2	2	福祉	
		☐	☐	☐	コミュニティデザイン	4	2	福祉	
発展科目	地域社会の理解	☐	☐	☐	びわ湖・滋賀学	4	2	社会	4
		☐	☐	☐	都市社会学	4	2	社会	
		☐	☐	☐	環境社会学	4	2	社会	
		☐	☐	☐	地域と語り	1	2	CM	
		☐	☐	☐	地方自治論	4	2	福祉	
	課題解決の原理と方法	☐	☐	☐	社会問題の社会学	3	2	社会	6
		☐	☐	☐	集団と組織の社会学	3	2	社会	
		☒	☒	☒	NPO・NGO論	3	2	社会	
		☐	☐	☐	地域再生の社会学	5	2	社会	
		☐	☐	☐	社会運動論	6	2	社会	
		☐	☐	☐	コモンセンス論	2	2	CM	
		☐	☐	☐	ファシリテーション技法	3	2	CM	
		☐	☐	☐	まちづくり論	4	2	CM	
		☒	☒	☒	生活問題論	2	2	福祉	
		☐	☐	☐	社会貢献論	3	2	福祉	
	☐	☐	☐	ボランティア論	3	2	福祉		
	☐	☐	☐	社会企業論	4	2	福祉		
	分野別課題の理解と活動	☐	☐	☐	エスニシティ論	4	2	社会	4
		☐	☐	☐	家族社会学	4	2	社会	
		☐	☐	☐	現代宗教論	5	2	社会	
		☐	☐	☐	子ども社会学	5	2	社会	
		☐	☐	☐	寺院活動論	4	2	CM	
		☐	☐	☐	仏教福祉活動論	5	2	CM	
		☐	☐	☐	高齢者福祉論Ⅰ	1	2	福祉	
		☒	☒	☒	児童福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
☒		☒	☒	障害者福祉論Ⅱ	2	2	福祉		
☒		☒	☒	家族福祉論	3	2	福祉		
☐	☐	☐	国際福祉論	4	2	福祉			
学科指定科目	☐			社会統計学Ⅰ	2	2	社会	2	
	☐			社会統計学Ⅱ	3	2	社会		
	☐			質的調査法	3	2	社会		
	☐			量的調査法	4	2	社会		
	☐			民俗学	5	2	社会		
	☐			市民社会論	5	2	社会		
	☐			観光社会学	6	2	社会		
学科指定科目		☐		シティズンシップ論	1	2	CM		
		☐		地域スポーツ論	2	2	CM		
		☐		地域と経済	3	2	CM		
		☐		地域と社会動態	3	2	CM		
		☐		地域社会とメディア	3	2	CM		
		☐		質的調査法	3	2	CM		
		☐		量的調査法	4	2	CM		
学科指定科目			☒	地域福祉論	4	4	福祉	6	
			☐	社会福祉調査論	4	2	福祉		
実習科目					社会共生実習ⅠA	3	2		共通
					社会共生実習ⅠB	4	2		共通
					社会共生実習ⅡA	5	2		共通
					社会共生実習ⅡB	6	2		共通
					社会共生実習ⅢA	7	2	共通	
					社会共生実習ⅢB	8	2	共通	
合計								30	

龍谷大学社会学部
2025 年度「社会共生実習」概要／募集要項

⑤

プロジェクト名	コミュニティの情報発信！ レク龍 プロジェクト	
担当者名	久保和之 ★連絡先／ kazukubo@soc.ryukoku.ac.jp	
プロジェクトの概要	社会の少子高齢化や情報化が進むとともにコロナ禍において、地方のレクリエーション協会では、スタッフの高齢化が進み、業務活動の継続が困難な状況が生じ始めている。社会的な組織の重要な業務の一つに広報活動があり、それを担う人材の育成が重要視されてきている。そこで、地方団体の広報活動について、実践を通して学んでいく。	
募集学生数	上限 6名、下限 1 名	
活動場所	草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津） 大津市真野浜水泳場 木ノ本まちづくりセンター	
到達目標と 成績評価方法 ※実習科目ですので、1 セメスターにつき 60 時間以上の実習（うち 40 時間は原則として学外）を要します。	1 年目前期	1 年目後期
	第 3・5・7 セメスター	第 4・6・8 セメスター
	広報活動の内容を学ぶ	広報活動の実際を体験する
	成績は、実習への態度や参与状況によって評価します。	成績は、実習への態度や参与状況によって評価します。
	2 年目前期	2 年目後期
	第 5・7 セメスター	第 6・8 セメスター
	広報業務の問題点を探る	広報活動の問題点を改善する
	成績は、実習への態度や参与状況によって評価します。	成績は、実習への態度や参与状況によって評価します。
	3 年目前期	3 年目後期
	第 7 セメスター	第 8 セメスター
	主体的な広報活動について考える	主体的な広報活動を実践する
	成績は、実習への態度や参与状況によって評価します。	成績は、実習への態度や参与状況によって評価します。

2025 年度の 活動スケジュール 概要	1 年目の学生 広報誌の事例を収集して分析する SNS の発信について学ぶ 情報収集、情報発信 HTML の学習 自主事業企画運営補助 2 年目の学生 記事を作成する 広報誌の編集補助をする 記事作成のために事業の取材をする 電子媒体での広報活動を学ぶ 広報用の写真や動画を撮影する 自主事業企画運営企画 3 年目の学生 記事作成のために事業の取材をする 自主事業企画運営統括 9 月 全員 全国レクリエーション大会参加
系統履修すべき 科目の紹介	次頁参照
主な活動曜講時 (時間割を組む際に 参考にしてください)	7 月から 11 月までの毎月第一土曜日 二か月に一回程度で日曜日の夜 夏休みの平日に 4 日程度
担当者からの メッセージ	学外の様々な活動を通して社会の組織や団体の運営について学ぶ ことができます。大学では学べないことがたくさん経験できま す。 広報や企画運営について学びたい人は、挑戦してください。

「コミュニティの情報発信！レク龍プロジェクト」の受講に伴う系統履修すべき科目の紹介

※「系統履修すべき科目」とは、必修ではなく、履修することでより理解が深まる科目を指します。

※「社会共生実践プログラム認定証」の取得を目指す者は、卒業時まで下表右に明記された指定単位数の修得が必要となります。

【注意】他学科が提供する学部共通講義については、上限16単位までを卒業要件単位として認定します（16単位を超えて履修することは可能ですが、その単位は卒業要件単位に認定されません）。

区分		社会	CM	現福	科目名	セメスター	単位数	提供学科	「社会共生実践プログラム」指定単位数 ※詳しくは履修要項をご参考ください
基礎科目		☒	☒	☒	現場主義入門	2	2	共通	2
		☐	☐	☐	差別論	3	2	社会	6
		☐	☐	☐	地域社会論	4	2	社会	
		☐	☐	☐	コミュニティ論	2	2	CM	
		☐	☐	☐	多文化共生論	2	2	福祉	
		☐	☐	☐	コミュニティデザイン	4	2	福祉	
発展科目	地域社会の理解	☒	☒	☒	びわ湖・滋賀学	4	2	社会	4
		☐	☐	☐	都市社会学	4	2	社会	
		☐	☐	☐	環境社会学	4	2	社会	
		☐	☐	☐	地域と語り	1	2	CM	
		☒	☒	☒	地方自治論	4	2	福祉	
	課題解決の原理と方法	☐	☐	☐	社会問題の社会学	3	2	社会	6
		☐	☐	☐	集団と組織の社会学	3	2	社会	
		☒	☒	☒	NPO・NGO論	3	2	社会	
		☐	☐	☐	地域再生の社会学	5	2	社会	
		☐	☐	☐	社会運動論	6	2	社会	
		☐	☐	☐	コモンセンス論	2	2	CM	
		☐	☐	☐	ファシリテーション技法	3	2	CM	
		☒	☒	☒	まちづくり論	4	2	CM	
		☐	☐	☐	生活問題論	2	2	福祉	
		☒	☒	☒	社会貢献論	3	2	福祉	
		☐	☐	☐	ボランティア論	3	2	福祉	
		☐	☐	☐	社会企業論	4	2	福祉	
	分野別課題の理解と活動	☐	☐	☐	エスニシティ論	4	2	社会	4
		☐	☐	☐	家族社会学	4	2	社会	
		☐	☐	☐	現代宗教論	5	2	社会	
		☐	☐	☐	子ども社会学	5	2	社会	
		☐	☐	☐	寺院活動論	4	2	CM	
		☐	☐	☐	仏教福祉活動論	5	2	CM	
		☐	☐	☐	高齢者福祉論Ⅰ	1	2	福祉	
		☐	☐	☐	児童福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
		☐	☐	☐	障害者福祉論Ⅱ	2	2	福祉	
		☐	☐	☐	家族福祉論	3	2	福祉	
		☐	☐	☐	国際福祉論	4	2	福祉	
学科指定科目	☐			社会統計学Ⅰ	2	2	社会	2	
	☐			社会統計学Ⅱ	3	2	社会		
	☐			質的調査法	3	2	社会		
	☐			量的調査法	4	2	社会		
	☐			民俗学	5	2	社会		
	☐			市民社会論	5	2	社会		
	☒			観光社会学	6	2	社会		
学科指定科目		☐		シティズンシップ論	1	2	CM		
		☒		地域スポーツ論	2	2	CM		
		☐		地域と経済	3	2	CM		
		☒		地域と社会動態	3	2	CM		
		☒		地域社会とメディア	3	2	CM		
		☐		質的調査法	3	2	CM		
		☐		量的調査法	4	2	CM		
学科指定科目			☐	地域福祉論	4	4	福祉	6	
			☐	社会福祉調査論	4	2	福祉		
実習科目				社会共生実習ⅠA	3	2	共通		
				社会共生実習ⅠB	4	2	共通		
				社会共生実習ⅡA	5	2	共通		
				社会共生実習ⅡB	6	2	共通		
				社会共生実習ⅢA	7	2	共通		
				社会共生実習ⅢB	8	2	共通		
合計									30

【2025 年度「社会共生実習」個別履修相談会について】

プロジェクト別での履修相談会が下表のとおり開催されます。**★印がついている担当教員は、別途、問い合わせ**
に対応くださいます。連絡先は、各プロジェクトの紹介ページにある担当者名欄で確認してください。

プロジェクト名	担当 教員	開催日時【会場】		
		※社会共生実習支援室は 6 号館 1 階の社会学部教務課横にあります		
①地域エンパワねっと・大津中央	脇田 健一 ★	1/15(水) 12 : 30-13 : 30 【社会共生実習支援室】	1/17(金) 12 : 30-13 : 30 【社会共生実習支援室】	
②農福連携で地域をつなぐ —「地域で誰もがいきいきと 暮らせる共生社会に向けて」	坂本 清彦 ★	相談会は開催せず、 随時、連絡先への問い合わせに対応します		
③お寺の可能性を引き出そう！ —社会におけるお寺の役割を考える—	猪瀬 優理 ★	1/10(金) 12 : 30-13 : 15 【社会共生実習支援室】	1/16(木) 12 : 40-13 : 15 【社会共生実習支援室】	1/17(金) 12 : 40-13 : 15 【社会共生実習支援室】
	古莊 匡義 ★			
④障がいがある子どもたちの放課後支援	土田 美世子 ★	1/20(月) 12:30-13:30 【社会共生実習支援室】		
⑤コミュニティの情報発信！ レク龍 プロジェクト	久保 和之 ★	1/17(金) 11 : 00-12 : 30 【3 号館 B104】	1/17(金) 12 : 30-13 : 30 【社会共生実習支援室】	